

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからご覧いただけます。

12月号

第 61 巻 第 11 号
 2016 年

無料
 Free

も
く
じ

今月の 1 枚	1 ページ
・ライチョウ会議長野大会を終えて	
博物館のひろば	2~3 ページ
・ライチョウサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」の概要	
展示・休館日などのご案内	3 ページ
・特別展示室を展示替え ・ミュージアムショップ冬季営業日 ほか	
博物館のひろば	4 ページ
・山の歴史ウォーキング 体感! ・登山史資料集発行に向けた現地調査 ほか	



博物館施設案内
 はこちら



ライ
チ
ョ
ウ
サ
ミ
ツ
ト
シ
ン
ポ
ジ
ウ
ム

ライチョウ会議長野大会を終えて

鳥羽 章人

10月15・16日の両日にかけて大町市文化会館ほかでライチョウサミット「第17回ライチョウ会議長野大会」が開催されました。(詳細は博物館の広場で紹介します。)

同大会は、ライチョウに関する調査・研究の充実、情報交換、保護対策等を検討する場として、平成12年から年1回、ライチョウの生息地や飼育をしている動物園において開催されてきましたが、大町市では過去に第1回・2回・8回の大会が行われ、今回で4回目となりました。年々参加者が増え、本年度は両日通じて延べ約740人の参加がありました。

本年は特に同大会の名称に「ライチョウサミット」の冠を

つけ実施されましたが、従前までの内容に加え、行政も加わってライチョウ保護や山岳環境保全に連携して取り組む必要性が確認され、15日のシンポジウムにおいては、副大会長の牛越大町市長より同主旨の大会宣言(大町宣言)が発表されました。

シンポジウム当日は、歌手の湯澤かよさんのアトラクションや、タレントの三四六さんのシンポジウム参加等もあって、親しみやすい内容に一般の方からも大勢参加していただくことができました。

(市立大町山岳博物館 館長)

ライチョウサミット 大町市で開催されました



ライチョウ会議大会は、ライチョウの保護を目的にその生息地を抱える全国の各県を中心に関係者が集い、専門家会議や一般参加者を対象としたシンポジウムなどを開催するものです。平成12年に第1回大会が大町市で開かれて以降、毎年開催され、これまでに長野県・富山県・岐阜県・山梨県・静岡県・新潟県・石川県・東京都で行われてきました。大会は今回で17回目を数え、長野県内での開催は5回目、うち大町市を会場にして4回目の開催となります。

今回の長野大会は、山岳博物館が大会実行委員会の事務局を長野県自然保護課とともに務め、10月15日(土)・16日(日)に大町市で開催されました。2日間にわたった長野大会のようすについて概要をご紹介します。

1 日 目

◎エクスカーショ

1日目午前は、山岳博物館を会場にしてエクスカーショ(現地見学)が開催され、定員を超える55人の参加がありました。当館の学芸員と指導員が説明・案内役を務め、山岳博物館におけるライチョウ飼育繁殖の歴史や現在の取り組みなどについて事前説明を行った後、実際に本館展示室内のライチョウ展示コーナーや付属園のライチョウ舎の見学を行いました。



エクスカーショ (会場：市立大町山岳博物館)

◎ライチョウ保護行政連携会議

1日目午前、エクスカーショを開催する一方で、サン・アルプス大町を会場にして、ライチョウ保護行政連携会議が開催されました。

これはライチョウ保護を目的とした自治体間の連携について検討する会議で、県内外から関係者約30人が出席して、自治体の取り組み等に関する報告と情報共有・意見交換を行いました。ライチョウ会議大会の中で、こうした行政関係者のみによる会議を開催するのは、今回がはじめての試みとなりました。

◎ライチョウサミットシンポジウム

1日目午後は、大町市文化会館を会場にして一般向けの公開シンポジウムが開催され、約400人の参加がありました。

これは、ライチョウ保護と山岳環境保全に向けた産学官民による新たな連携を構築することを目指した今大会のメイン・イベントです。さまざまな視点からの企画を盛り込んだ催しで、ライチョウについて事前知識をあまり持ち合わせていない方でも楽しみながらライチョウや山岳環境について深く知ることができるという内容の濃いものでした。



ライチョウサミットシンポジウム (会場：大町市文化会館)

「第17回ライチョウ会議長野大会」が

10月15日（土）・16日（日）実施



各種啓発パネル展示等の関連イベント（会場：大町市文化会館）



レセプション（会場：大町温泉郷）

2 日 目

◎専門家会議

2日目は、サン・アルプス大町を会場にして専門家会議が開催され、一般聴講者を含む約200人の参加がありました。これは研究者によるライチョウの生息状況調査結果（生息域内保全）や、動物園でのライチョウ類の飼育経過等（生息域外保全）について、ライチョウの専門家が最新報告を行うもので、情報共有・意見交換が行われました。



専門家会議（会場：サン・アルプス大町）

ライチョウは大町市の鳥で、長野県の県鳥でもあります。今回の長野大会では、従来の大会実行委員会の組織に加え、県が一緒になって開催することで、ライチョウ保護とその生息地である山岳環境保全のために、国・県・市町村・民間・有識者等の横断的な連携を構築する初年度と位置付け、「ライチョウサミット」と称し、山岳環境保全も視野に入れたより実効性のある大会を目指しました。

「ライチョウ保護から山岳環境保全を考える」を大会テーマに掲げて2日間にわたり開催された長野大会は、1日目夜のレセプション（懇親会）参加者約50人を含め、延べ約740人の参加がありました。多くの皆さま方に参加いただいたことで、本大会が有意義なものとなり、ライチョウ保護とその生息環境保全に向けて、各方面の連携をより一層高める好機となりました。

◎ライチョウ域外保全研究会

2日間にわたるライチョウ会議長野大会が終了した翌日の10月17日（月）には、ライチョウの生息域外保全にたずさわる国内の動物園等の関係者による「ライチョウ域外保全研究会」が大町市役所で開催されました。

展示・休館日などのご案内

■ 特別展示室を展示替え

12月1日（木）から展示テーマを「山と芸術」とし、山岳画、ウッドピッケルの展示となります。山岳文化の一端をご堪能ください。

■ 年末年始の休館

山岳博物館・付属園は12月29日～1月3日まで休館となります。なお12月24日は連休となりますので開館します。

■ ミュージアムショップ「もるげんろーと」冬季営業日

12月～3月の間は、土日・祝日の営業となります。ただし、12月23日～25日、1月7日～9日は臨時休業となります。雪景色を眺めながらのコーヒータイムはいかがでしょう。

博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の65歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
(入場の際、受付にてお名前等をご記入ください)

山の歴史ウォーキング 体感！
山岳文化都市おまち 木崎湖編
平成28年10月30日(日)実施



博物館と友の会の共催事業として実施し本年度2回目になる山の歴史ウォーキング。今回のウォーキングは、周囲の山々が紅葉に彩られた木崎湖をフィールドに、白馬山荘の開拓者・松沢貞逸の墓碑などの山に関わる史跡のほか、木崎湖周辺の遺跡や森城址などの史跡、カワシヅユガイやキザキコミズシタダミ、ヒカリゴケなど木崎湖周辺において貴重な動植物を参加者の皆さんとともに見学することができました。今回のウォーキングは、1周9km程を、解説と昼食を含めて約6時間かけて、ゆっくりと散策することができました。

カクネ里雪渓、資機材回収と雪渓調査
平成28年10月19日(水)～21日(金)実施



氷体の流動が確認され、また今年6月から気象観測装置を設置していたカクネ里雪渓に学術調査団が入山しました。

冬の少雪、長引いた雨、夏の高温など特異な天候により、アプローチもカクネ里雪渓も例年になく状況となり、スピード・パワー・テクニックを備えたガイドをお願いし、気象観測データを始めとする資機材を回収するとともに、例年とは全く異なる姿となった雪渓周辺で数百枚に上る写真や動画を撮影し持ち帰りました。

調査団は今年度で解散の予定ですが、継続的調査に向けた模索もされています。

登山史資料集発行に向けた現地調査
(黒部ダム～黒部峡谷下廊下～樺平)
平成28年10月3日(月)～5日(水)実施



山岳博物館では、後立山連峰を中心とした北アルプスの登山史にかかわる文献資料を収録した資料集を、平成22年度からシリーズで発行してきました。シリーズ完結編として、黒部川側からの登山史と後立山南部地域登山史に関する文献資料を収録した資料集(第3集)を来年3月末に発刊する予定です。

この資料集発行に向け、関係する山域の現地調査を今年度実施中です。2回目となる今回は、黒部川へ出向きました。黒部ダムから黒部峡谷の核心部である下廊下を経て樺平まで歩き、現地の様子を確認して撮影記録することで、資料集の巻頭に掲載する参考写真に供します。

美麻小中学校4年生の社会科・理科連携授業
平成28年10月18日(火)実施



市内小学校と連携して、博物館の展示や収蔵資料を活かした社会科と理科の授業を毎年実施しています。今回は大町市立美麻小中学校へ出向き、出張講座形式で授業を行いました(1クラス5人)。

社会科では「きょう土を開く」の単元で、百瀬慎太郎が作った大沢小屋や大町登山案内者組合について説明し、当時の登山道具などを身に着ける体験を行いました。理科では「人の体のつくりと運動」と「生き物のくらし」の単元で、カモシカの体の構造やライチョウの生活について剥製を見てもらいながら授業を行いました。今後の授業でも、より体験的な学習を心がけながら実施していきます。

高山植物の生活史研究

平成28年10月7日(金)～8日(土)実施



山岳博物館では、企画展また付属園整備に向け、NPO法人 白山高山植物研究会の協力のもと高山植物を栽培しながら、種子が発芽してから開花に至るまでのような生活をしているのか調査研究を行っています。

これまでに、約40種の種子や実生の提供を受け、ミヤマクワガタやイワギキョウなどが開花に至りました。また、難しいとされる半寄生植物のヨツバシオガマの栽培にも挑戦しています。

この度は、10月上旬に白山室堂に赴き、白山高山植物研究会会員らとともに種子形態の観察を行いました。

【写真はミヤマクワガタの種子】

相次いで山岳博物館に寄付金

平成28年10月12日(水)、(株)松本山雅様より
平成28年10月26日(水)、長野銀行様より



今年8月7日に行われた「松本山雅FC vs 水戸ホーリーホック」の試合会場に「ガンズくん神社」を設置。

集まったお賽銭をライチョウ保護活動に取り組んでいる当館に役立てると13,127円が寄付されました。10月12日に、ガンズくんが来市され、直接荒井教育長に寄付を手渡されました。(写真)

また10月26日には県内の観光資源を将来にわたって保護し、観光の発展を援助するために長年にわたって支援を続けている長野銀行様より博物館に100,000円の寄付をいただきました。山岳環境の保全やライチョウ飼育に役立ててまいります。

編集・発行



—創立1951年—

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館 編集責任者 鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail: sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL: http://www.omachi-sanpaku.com

12月号

第61巻 第11号
2016年

発行日 2016(平成28)年11月25日

印刷 有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL. 0261-22-3030 FAX. 0261-23-2010